

平成 23 年度市民協働のまちづくりフォーラム開催報告 概要

1. フォーラム

「絆からはじまる防災力～地域にできること～」

【日時】平成 24 年 1 月 22 日（日） 13:00～16:00

【場所】本郷生涯学習センター

【参加人数】230 人

(1) 基調講演：見直そう！近所力・地域力～災害に強いまちにするために～

【講師】多田 そうべい（元殿さまキングス・NPO 法人「命のつどい」理事長）

【内容】実際に講師が町内会の中で行ってきた活動や、自身が NPO 法人を立ち上げるに至った経緯などをふまえ、人と人、地域の繋がりの大切さを話された。

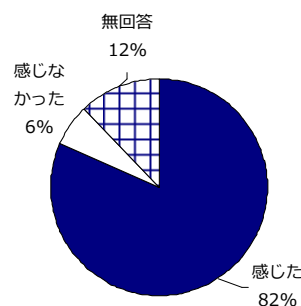


アンケートより

基調講演に参加されて、地域の絆の必要性を感じましたか。

(別紙 1 - 2・2 ページ問 3 - ①)

感じた・・・82%
感じなかった・・・6%
無回答・・・12%



地域の絆の必要性を感じた参加者は 82%で、感想としては「共助が一番大事な絆である事を再確認した。向こう三軒両隣を大事にしたい。」「自分一人では災害時には何も出来ない。みんなの協力が必要な事。」などが挙げられており、地域の繋がりが重要であるということを再確認した参加者が多かったと思われる。

(2) 第 1 分科会：備後の自然災害～私たちの地域で起こりうる災害を知る～

【講師】澤田 結基（福山市立大学都市経営学部講師）

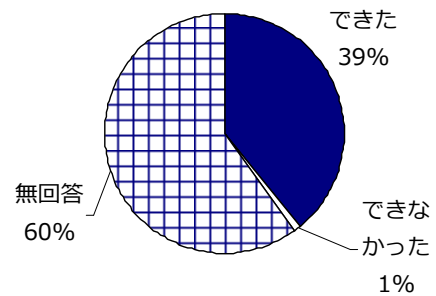
【内容】三原がどういった地形・地質であるかを説明したうえで、土砂災害や地震の際に起きる液状化現象について、道具を用いたり過去に三原で起きた地震の資料等も示したりしながら、三原にも必ず災害は起こると話された。

アンケートより

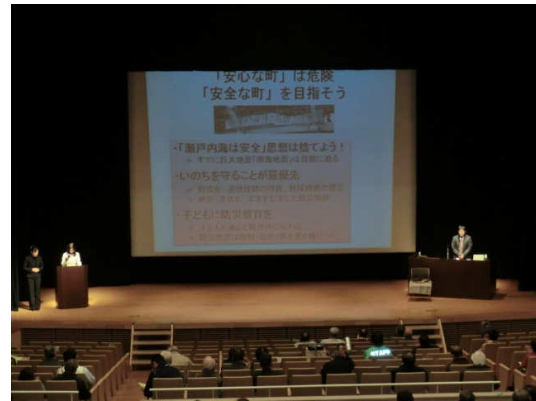
第1分科会「備後の自然災害」に参加されて、三原市で起こりうる自然災害を知る事ができましたか。(別紙1-2・3ページ問3-②)

できた…39%
できなかった…1%
無回答…60%

※無回答者が多いのは第2分科会参加者も回答数に含まれているため。



「できた」と回答したのは39%で、「できなかった」と回答したのは1%だった。感想としては「非常に科学的、論理的に話をされたから説得力があった。」「非常に解り易く恐さを感じました。改めて地域との行動の大切さを見直さねば！」などが挙げられ、災害を身近に感じることでできた参加者が多かったと思われる。



(3) 第2分科会：地域につながる防災～一人ひとりをつなぐ！それはあなた！～

【講師】坂原 邦彦 (広島県社会福祉協議会・地域福祉課 主事)

広島県被災者生活サポートボラネット 担当)

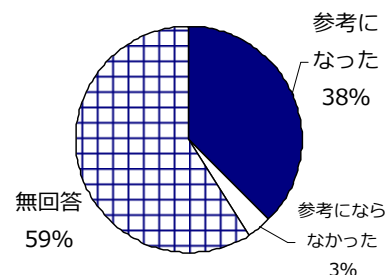
【内容】東日本大震災における支援活動をふまえ、広島県被災者生活サポートボラネットの役割や、災害が起きたときにボランティアがすべきこと、また、災害が起きる前の日常生活において地域が取り組むべきことを講演された。

アンケートより

第2分科会「地域につながる防災」に参加されて、地域の防災力向上に向けた取り組みの参考になりましたか。(別紙1-2・4ページ問3-③)

参考になった…38%
参考にならなかった…3%
無回答…59%

※無回答者が多いのは第1分科会参加者も回答数に含まれているため。



「参考になった」と回答したのは38%で、「参考にならなかった」と回答したのは3%だった。感想としては「災害救助の8割は住民同士の助け合いだということ。自分にもできるということ。」
「地域でする事が分かった。スライドの内容が印刷されていれば活用できる。」などが挙げられ、地域や自主防災組織をどのように動かしていくかのヒントを得た人が多かったと思われる。



2. 連続講座

第1回「防災マップ作成研修」

【講師】復建調査設計㈱

【日時】平成24年2月5日（日）13:30～16:00

【場所】ゆめきやりあセンター

【参加者数】70人

【内容】参加者に8人1組の班に分かれてもらい、三原市街地の白地図の上に透明なシートを重ね、それぞれ災害が起こった際の避難場所やそこへ至るまでの道筋、川や水路など危険な場所を書き込んでいった。アンケートの感想には、「今まで関心がなかったが、三原にも多くの危険な場所があるのには、びっくりした。早速帰って、地域の防災マップの作成をしたいと思う。」「今回の東日本大震災は、どの地方でもあり得ることであることを改めて知りました。三原市の防災マップを作成しましたが、安全な地域はほとんどなくて驚きました。日頃の防災意識がいかに大切かを学びました。」などが挙げられた。



第2回「小さいのちを守るナチュラル防災」

【講師】あんどろりす（防災ファシリテーター）

【日時】平成24年2月25日（土）13:30～16:00

【場所】ペアシティ西館2階 大会議室

【参加者数】39人

【内容】地震が発生した時にまず命を守るためにどう行動すべきか、また、普段どんなことに気をつけ、何を準備しておけば良いかということ、子どもを持つ母親の目線から講演された。防災グッズとして販売されているものをただ準備しておくだけではなく、実際に災害が起きた時に何がどう有効に使えるかを自分で考え工夫することが重要であるとし、力が弱くても人を救助する方法な



ど実際に身体を動かして説明された。アンケートの感想から、「自主防災活動の中で、赤ちゃんを含む母子に対する視点が抜けていることを痛感しました。」「子供を守る命を守るって、つきつめて考えなければ、いざ！！という時に役立つのだと痛感いたしました。」など、地域の防災活動の中で母子に目を向けることや、災害が起こる前に心構えをして具体的に準備を行うことの大切さを感じた参加者が多かった。



第3回「東日本大震災の被災地取材して」

【講師】中尾 卓英（毎日新聞社記者）

【日時】平成 24 年 3 月 18 日（日）13:30～16:00

【場所】ゆめきやりあセンター

【参加者数】51 人

【内容】記者である中尾さんが地震の起きた直後から1年経った現在までの被災地の様子や、三原市が受け入れた被災者の話、尾道で被災者受け入れの活動をしている方の話などを交えて講演された。また、毎日新聞社が行っている防災甲子園や、そこに出場し、全校生徒が津波から生き延びた石巻市の学校について紹介され、子どもたち自身が防災意識を持つことの大切さも話された。会場には阪神大震災で息子を亡くした女性があり、被災者に寄り添うというのは震災が忘れられないよう関心を持ち続けることであると話され、最後には参加者が4人グループになって、被災地に対して何ができるか、また、地域で自分達がすべきことは何かを話し合っ発表した。

第4回「家族を守る『防災体験』

～今‘わたし’にできること～

【講師】三原市防災ネットワーク

【日時】平成 24 年 3 月 25 日（日）9:30～12:30

【場所】沼田川河川防災ステーション

【参加者数】116 人



【内容】参加者を大人4グループと親子1グループに分け、それぞれ大人グループは「土のう積み」「車いす体験」「耐震化と家具固定」「担架作り」を体験し、親子グループは紙食器や新聞紙スリッパ、紙トンボなどを作ったり煙体験・消防車両見学をしたり、防災カルタ取りをした。大人グループはそれぞれに消防署員や防災ネットワークスタッフ等から熱心に説明を聞き、土のうを積んだり車いすを押したり体を動かして体験していた。子どもたちは楽しみながら工作をしたりカルタ取りをし、親たちは赤十字奉仕団のスタッフから「今ここで災害が起きた場合、子どもを連れて逃げる場所を考えていますか？」「普段の食卓で誰がどうする、どこに逃げるということを決めておくことが大事です」とアドバイスを受け、大きく頷いていた。最後には参加者全員が、炊き出しとしてハイゼックス（包装食袋）で作られたうどんを食べた。

H22年度 【環境】
<p>フォーラムテーマ 「地球の力(パワー)環境にやさしい住みたいまち」</p>
<p>開催日時：平成22年10月23日(土) 13:30～16:00 開催場所：中央公民館 2階中講堂</p> <p>参加者数：130人 開催形態：パネルディスカッション及びパネル展示 ※生涯学習フェスティバルに合わせて行った</p>
<p>まちづくり講習会(連続講座)テーマ 「一緒に解決！あなたとわたしの地域の課題」 ～協働で つなぐ・広げる・動き出す～</p>
<p>第1弾 まちづくり連続講座 第1回 身の回りの環境に関する課題あれこれ 平成23年2月19日(土) 参加者数：26人 第2回 解決策をみんなで考えよう！ 平成23年2月26日(土) 参加者数：26人 第3回 解決に向けてのワン・ツー・スリー 平成23年3月5日(土) 参加者数：22人 第2弾 みんなで広げよう！まちづくりのつどい 平成23年3月26日(土) 参加者数：106人</p>
<p>評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムを生涯学習フェスティバルに合わせたため、同日開催の別のイベントと重なり、参加者が少なかった。 ・次につながるため、アンケートの中に、案内を送付する住所氏名を任意で記入してもらう欄を設けた。 ・フォーラムから連続講座まで一貫した流れではなかった。

H23年度 【防災】
<p>フォーラム・まちづくり講習会(連続講座)テーマ 「絆からはじまる防災力～地域にできること～」</p>
<p>開催日時：平成24年1月22日(日) 開催場所：本郷生涯学習センター(にいたかホール及び多目的ホール)</p> <p>参加者数：230人 開催形態：基調講演及び二つの分科会を開催・パネル展示</p>
<p>まちづくり講習会(連続講座) 第1回 「防災マップ作成研修」 平成24年2月5日(日) 参加者数：70人 第2回 「小さいのちを守るナチュラル防災」 平成24年2月25日(土) 参加者数：39人 第3回 「東日本大震災の被災地取材して」 平成24年3月18日(日) 参加者数：51人 第4回 「家族を守る『防災体験』～今‘わたし’にできること～」 平成24年3月25日(日) 参加者数：116人</p>
<p>前年度から見直した点</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムの開催形態を基調講演と分科会とし、それぞれの対象者とねらいを明確にした。 ・一貫したテーマを決め、フォーラムを開催する前の段階から連続講座の内容もほぼ決めたくて同時に広報を行った。
<p>評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムから連続講座まで一貫したテーマで行ったため、一連の流れが分かりやすかった。 ・フォーラムが他の行事と重なったり、講座2のように親子を対象としている場合は事前に申し込みを取ったほうが良いと指摘があったり、参加者が参加し易い日程や方法を考えなければいけない。

H24年度
<p>未定</p>
<p>見直していくべき点・引き続き努力する点</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムと連続講座の流れを作ること。 ・対象者やねらいを明確にすること。 ・日程はなるべく他の行事と重ならないようにし、参加しやすい時間帯を考える。